

★私の意見

「海の子の家」

によせて

丸川 栄子
〈児童文学作家〉



生れも育ちも神戸という純粹の神戸っ子である私は、かねがね神戸の作家でなければ書けない作品を、ぜひ書きたいと願っていました。そしてできたのが、最近出版した創作児童文学「海の子の家」(小峰書店)です。

「海の子の家」とは、神戸港で働くハシケ生活者の子弟達を預って、集団生活をさせ、学校へ通わせている市の施設、神戸水上児童寮のことなのです。

神戸港へいくと、ハシケがタグボートに曳かれて往つたり来たりしているのや、ハシケだまりに並んでいるのを見かけます。ハシケは、神戸港の風物として欠かすことのできないものですし、神戸港の隆盛を支え続けてきた大切な扱い手です。

でも、その小さな舟の中で、一つの生活がひつそりと営まれていることを知らない人が、多いのではないでしょうか。まして、ハシケの子弟達が、どんなにして育つていくかと、うことを知っている人は、きっと少いと思います。私は、神戸に最も相応しい題材として、ハシケの子弟を書こうと考え、取材のために水上児童寮をたずねました。そしていろいろお話を聞きし、自分がハシケについて全く無知であったことを痛感させられました。

いつもゆれ動いていて静止することない、海にとりかこまれた住居。その中にいる子弟は、フラフラせずに真すぐ走ることが不思議なのです。洗面の水さえ不自由な生活です。便所も風呂もありません。世間から隔離された舟底の狭い部屋の中で、家族とだけくらす子弟達は、ハシケの生活を知らない私達とは反対に、陸の上の生活を全く知らないのです。

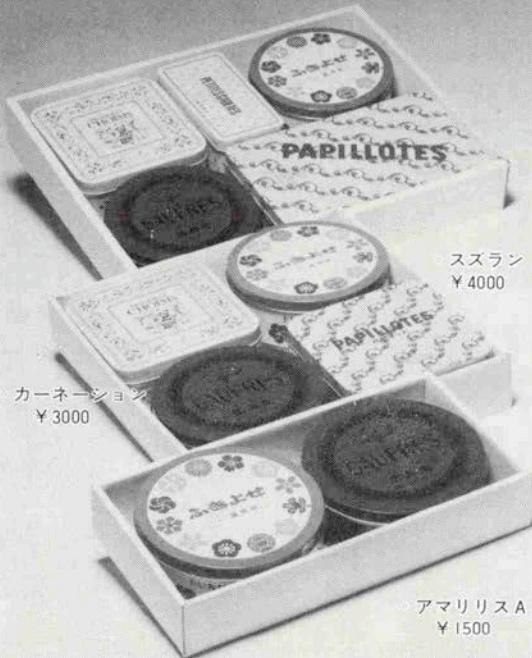
水上児童寮の職員の方たは、こういう環境の中で育つた子弟達を預って、お世話をなさっているのです。私は、その御苦労を、また幼くて親元を離れなければならない子弟達の心を、察しながら手元から離さなければならぬ親達の心を思いました。

神戸港の繁栄の陰に、こうした世界、こうした人びとのあることを「海の子の家」は学ばさせてくれたのでした。

お中元は

お菓子でごあいさつ

味のバラエティをセットした月堂オリジナル
のご進物セット、歓かず取りそろえました。



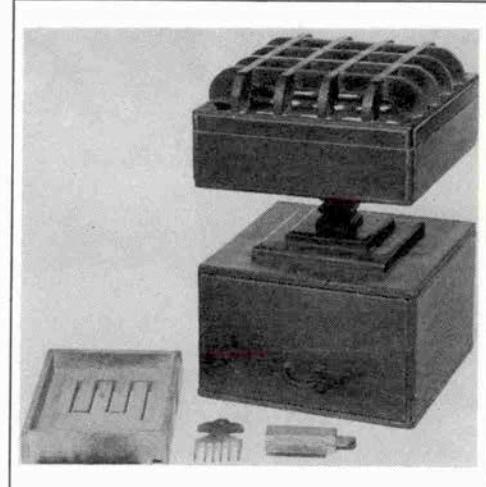
古い老舗に新しい味覚



神戸月堂

本店・神戸元町3 TEL(391)2412
全国有名百貨店・名菓街・のれん街

刀剣 古美術 書画 骨董



香時計（江戸期） ¥170,000

鑑定 買入
研 白鞘 摘 御承処

神戸市生田区元町通6丁目25番地

刀 古 美 剣 術 葵
古 骨 葵 美 術 葵

〒650

TEL078-351-0081

こんな馬鹿げたことをしている限り日本からは作家は生まれてこないのではないか。

パリの一等場所にはアメリカ、イタリア、その他の国々が画廊を持ち、その国の新鋭作家をとりあげている。日本は何もなく淋しい思いをした。画廊の主人は自分の考え方を持ち、それ以外はみないという徹底した姿勢を持っていて気持ちいい。日本のようになんでも売ればいいというのではなく画廊が個性を持ち、日本の作家のよううに美術雑誌で流行におどらされることはない。ヨーロッパではオリジナリティのある作家がじわじわと育っているように思う。日本の場合オリジナリティのあるよい作品を買う人が少ないので、画廊が自分の考え方を持つて、経営をやる資本のないことを考へると、現状も理解出来るので画廊をせめるわけにはゆかないが、神戸に一つでも主体性のある画廊が出来、世界的な視野にたつてくれるよう願望する。

思いつくまま

訪欧の旅より

松本 尚女

(御殿舞松本流家元)

旅にでるまでは、いろいろな夢と期待に胸をふくらませ、ヨーロ

ッパは、さぞ美しい所であり、ごみ一つないのかと思つていました。が、ローマもパリもスペインもまたないのにびっくりしましたが、夜中には水できれいに町を洗つてるのは良い事だと思いました。

ロンドンでは桜が咲き、スペインでは桐や藤が、花ざかりで、ローマではつづじに似たお花が満開、スイスではチューリップを初め、三色スミレ、可愛い草花で公園は一ぱい、里斯が自由に遊び廻つて、自然の中の美しさに一ときのやすらぎをおぼえ楽しい思い出の町でした。

スペインの有名な闘牛、セリビヤの花祭と一緒にしたのでたいへんな人で見物もむつかしいようでしたが、とにかく見ることができましたが、私達にはあまりにも、

可哀想で、最後まで見ることは出来ませんでした。神様に牛をささげる行事だそうですが、今でもそれがつづけられていると言ふことに感覚的な違いを見た思いでした。今はショートとしてのあつかいの方が多いようです。

牛がなぶり殺しにされるのはたえられませんでしたが、闘牛士の美しいスタイルと美男子揃には、あつと思ひます。

でもやつぱりその人々によつて牛を殺すのかと考えた時は、美しい半減いたします。

次に使節として訪欧の旅をしたのですが、有形の文化保護委員の方々とのお会いで、私達の様に無形の芸術に対してのお話はあまりできませんでしたが、英國でもやはり芸術に関しては中央政権のよう申されておられました。オペラを見たり、歌を聞いたりという機会がなく大へん残念な事でしたが、茶道も舞もよく分つて頂けた様で、いろいろと何年位すれば、どの様になるかとか、感心して見て下さった様で、品が良いとか、一つ一つのボーグに意味のあることが良く分る。中にくわしい批評をして下さつて嬉しく、やれやれという思いでした。スペインでは音のあるものが良いのではないかと考え、尚巳さんに、千鳥を足拍子を入れてやらせたところ日本の



左より二人目松本尚女さん

よくわかつて頂き、とても受けた
ようです。とにかく、日本のものは
は外国におとつているよう思う
のは広い土地、巨大な建物の中に
ある芸術作品、立派なものではあ
りますが、渋味とか、奥深さ、壯
重さにはかけている様です。私達
日本人は、外国にカブレすぎてい
る様です。もっと自分達の物を大
切にし、自分の國の藝術に誇りを
持たねばならないと存じます。

日本の國は、すばらしい國です、
世界中で一ぱんぜいたくなのでは
ないでしようか。

もう一度、見直して下さい。

自分の國、日本を。

古典芸能をやっている私達、今
日あるこの喜びを訪歐の旅でより
一層深め、その任の重さも又、格
別であります。が、より良い物を作
品を作り日本の為に役立せたいと
考えております。

昨日の敵は 今日の友

中川 宗和

(デキシーランドオーナー・ピアニスト)



エリザベス女王が来日されてからクイーンズイングリッシュが話題になりましたが、私の周間にいる神戸在住の英國(UK)の友人達としたら、イングランド、スコットランド、アイルランド、ウェールズ、その上、ヨークシャーありで、出身地の訛りで喋べるものですから、あれを英語といつてもいいのかどうか……。

彼等が、お国言葉で出身地の民謡を大声で歌う時の誇らしげな顔、そして陽気な一面もあれば、子守歌を歌つて遠く離れた母親に想いを寄すのか、ビールに酔つた顔をクシャクシャにして落涙しては、ブーンという大きな音をさせて、ハンカチで鼻をかむのです。

テレビでサッカーのワールドカップを見てご存知のように、サッカーの試合や、ラグビーの試合となれば、その熱狂的な応援には出身地の誇りと、数世紀にわたるその歴史的背景を無視することが出来ません。

さて、この人達が集まつて、ビールを飲みながらスポーツの話題や、音楽、芝居?の話が酒のサカナになっていますが、彼等が一番好んで喜々として熱中するのが戦争の話題です。

戦争といつても近代の血なまぐさい我々の記憶に残っているもの

でなく、学校で教わったような歴史的なものなのです。

もちろん、我々日本人が学校で教わった以上に彼等にとって地元のことですから、その話の中に、気候やら、地型、その日の天気迄、「講師見てきたような嘘を分達の祖先の手柄話が代々、続いだものでしよう。

その頃の敵と味方が、ビールを飲みながらクイーンメリの事件や、バラ戦争のこと、その他領地の取り合いや小さなことまで、まるで昨日のことのようにケンケンゴウゴウとやっているのを見ていますと、太平洋戦争が、一時間前にあったように感じてきます。

国民性の違いと言えば、それまででしょうが、ま、英國と一口に言つても、人種的や言語学的に詳しく述べると同じ島国でも、我々と大きな違いはあります。が、一度、我々日本人も源氏、平家、豊臣、徳川等過去帳をひもといて、敵味方に別れて、ビールでも飲みながら議論してみたらと考へてみたのですが、一寸シンドイ氣もしますし、我々の国民性から考へて、本格的になつたら、ツカミあい、ドツキあい、血をみるとことになつて、あの世の祖先を苦笑させるこ

□ある集いその足あと

神戸空襲を記録する会

（神戸空襲を記録する会事務局長）

人間の記憶はどれだけの時間で風化するものか。いくら記憶に強いといつても三十年の歳月にはかなわないだろう。ところが、あの三十年前の空襲から奇遇にも生き残った人びとの炎の記憶は、まるで昨日の体験のように鮮烈である。それも生き地獄ながら生死の境を潜り抜けた人びとであれば、恐らく、忘れるわけにはいかないだろう。むろん、恐怖の記憶を持ちつづけて生きることは耐えがたい。天災として忘れてしまいたい。とはいえるとしても思いい出してしまふのがあの炎の記憶である。

その三十年前、神戸は二月四日から八月十五日までの相次ぐ空襲



西半分が灰じんと化した元町通り左は鳳月堂

で、市街は殆ど焼け野原となり、八千四百四十八人の死者を数えた。といつても、この死者の数とて安心できない。証言者の報告から割り出していけばずいぶん計りしれない死者が出ていたことは推測できる。それに、当時をふりかえってみれば、十代の娘から三十歳前後の若い主婦たちの多くが、あの空襲の炎の海を逃げまどい、幼いわが子とともに焼死体となつて、るるいと折り重なつたのである。さらに、犠牲者はその家族、といつても、老人や病人など弱い人びとであった。そして勇ましい人は、その時聞家にはおらず、また、少しでも戦力とみなされる人間はすべて一網打尽に戦争へまき込まれることを余儀なくしていた。したがつて、勇ましい人間はともかく、弱い人びとがあの戦争を逃げきることはとうてい起きるはずがなかつた。そのことは現在の公害を招き寄せた繁栄の中といえども、五十歩百歩、さしてちがつてゐるとは思えない。

神戸空襲を記録する会は、記憶が風化する危惧と、証言者がいなくなるということ。それに空襲下の弱い人びとの暮らしにとつては断じて戦争はカッコいいものではなかつた。だから一日も早くその体験を記録しておかねばならぬ。そして作業にかかるわけである。

あるが、あれから三十年の歳月は身も心もしぱつた。体験者の多くは高齢化し、中には一人、二人と亡くなつていく。それに、初めて筆を持ち、いまわしい記憶をゆさぶつて記録を書くのは耐えがたくさらには、言葉ではない尽せない空襲を招き寄せた責任と負い目もあるだろう。したがつて、体験者も十人十色で、空襲を記録する作業にはかなりの根気がいた。

周知のよう、空襲を記録する運動は全国四十二都市で野火のようになつて広がつてゐるが、神戸の場合には有志の人たちが身銭を切り、手弁当でやつてゐるので、どのようにして、どこまでやれるか、といふ見通しあえつかない有様である。でも、四十六年九月、四十人ほどの会員から発足して五年、ともかくやつとの思いで、「神戸空襲戦没者慰靈碑」の建立につづいて、「神戸空襲体験記・総集編」（七十編の体験手記と日記・写真および資料）五百二十頁を自前で出版することができた。さて、このやつとの思いがどのように継承され、発芽するのかしないのか。ただ今は、六月四日の「野坂昭如独演会」を終えて、八月に迎える神戸での全国連絡会議の準備をすめているところである。



新しいと
ゆうことは
いつまでも
古くならない
ことです。



店舗づくりのプロフェッショナル

信頼される



株 神戸日建

神戸市葺合区御幸通3丁目1

PHONE 078(251)3525(代)

NIKKEN MEMORY SERIES<6>

喫茶 8番

建築した当初はたいへんモダンだということで評判になりました。新聞や雑誌の方も撮影に来られ、お店のコマーシャルにもなり、良かったと思っています。

神戸日建さんの建築は、時代の先どりだけでなく、お店で働く者とお客様の両方の立場の快さを考えてくれています。今度改装の時も神戸日建にお願いします。

□ 神戸つ子談話室／ニューヨークの印象などを語る鴨居玲

アメリカ経由で帰ってきた ラ・マンチヤの男



Rey Kamoi

行きたいと言うのよ。私は人間の心理内部をあつかう人間だから、これらの絵は全部欲しいくらいだ。この絵をアメリカ人に見せてやりたいとね。何かあるのかって？私の絵に。それは私が聞きたいよ。私は今、描きたいものを描いとかなきゃいかんという心境になつてゐるので。どこでやつても同じだからね。

(ちなみにニューヨークの東57丁目とマジソン街が交わる一帯は、東京でいえば銀座五、六丁目の画廊街にある。ハマーギャラリーはその中で百年の歴史をもつ老舗画廊。日本人の具象画家の個展は初めてという)

一週間ばかりの短いお里帰り中も、東京、名古屋とひょいひょいと大またに飛びまわる。昨春のパリでの個展、そして今回のニューヨークでの個展（ハマーギャラリー、五日二十八日～六月十四日）とスケールの大きい活躍ぶり。「ふるさとをもたない男」だからという鴨居さんがこよなく愛す神戸の街で語る近況は――。

昨春パリ日動画廊で開いた個展でのできごと。あの個展は好評でね、私もTVに出たりしてたのを、たまたま見ていたおもしろい男、それがハマーギャラリーのプロデューサー、リボビツ氏だった。この男がすこぶるおもしろい男で、ソ連にコカコーラを売り込んだ人なんだけど本職は大学の心理学の教授。しゃべっていてぜひニューヨークでやりたい、アメリカにおまえの絵を持って

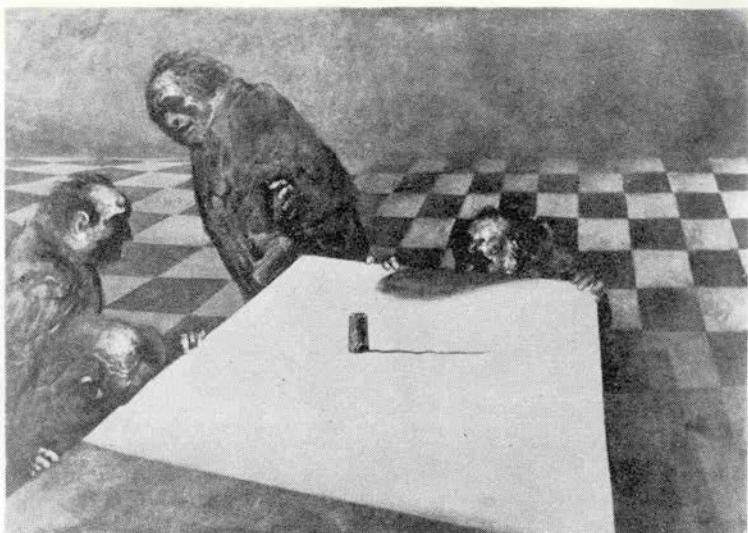
アメリカの印象といつても、たった一週間、しかも二年ヨークだけだから。まとまらないねえ。東京よりもきたないよ。神戸は帰つてくるたびにきれいになつてゐるからうれしい。空港に降りたってそれからホテルに行くのにタクシーに乗るわね。その国の印象はタクシーの運ちゃんに大部影響される、僕の場合は。たまたま乗り合わせたのはまだ運ちゃんになつて二日目という奴。ご存知のとおり不景気で電子工学やつてた人が運ちゃんになつたり、絵描きが運ちゃんやつたり、食えないからね。「エンバイヤステイトビルはどこや？」こっちに聞くぐらゐの奴なんだけど一生懸命案内してくれる。僕は疲れてるからホテルで寝ると淋しそうな顔をして

ね。まとまらない妙な国だねアメリカは。色々な情報で

スペイン生活は満四年。ヨーロッパでも別の世界ですよ、あそこは。スペイン人はフランス人のように近代化されてないね。フランスの遊びの精神、あそこは大人の国だね。「エマニエル夫人」日本でもカットされたとは思うがスペインでは何と上映時間三〇分。そんな国ですよ。私の村はスペインの田舎だけど、オツチヨコチヨイで世話好きでお人好しで……私、好きです。このあいだ電話したら、あらかじめ知らせておいたんだけど村中の人が集まつて来てて、「カモイ、カモイ、カモイ」の連続よ。国際電話は高くつくし、私が言葉がうまくないことを知ってるから「カモイ、カモイ、……ガチャン」私の村の住人は「私たちの血はガソリンだ」といつてますよ。ラテン系の人はオツチヨコチヨイだから私は好きなんだけど。羽田に着いて物足りないのは、「いま帰ったよ、オツカサン」というのがないからだろうね。寝起きでもいいから生きててほしいもんだよ、お袋さんは。

これから私は裸婦を描きたいと思つてますよ。人間を描く場合に欠かせない性の問題なんかをね。今まで「なんか恥ずかしい」という気がして、そんな教育を受けてきたんでしょうね。元来、僕は恥ずかしがりやですけど。外国をウロウロしてやつぱり私は日本人であると感じますね。どうしても越えられないもので、それを越える人間なんてありえないと思いますよ。そして西洋はすべてすぐれているということはないとも思いますね。

(赤尾兜子さんの「さざくれ立つ消しゴムの夜で死にゆく鳥」の句を見ると鳥肌がたつくらい共鳴するといふ。デッサンと色紙を交換するという約束、覚えてくれてるかな?と。ニューヨークで竹田の洋ちゃんと再会したけど、そのうち神戸っ子の洋ちゃんのページに出てくるでしょうね、と。神戸、いい友、いい酒は鴨居さんにとっては、やはり疲れをいやしてくれるのでしょうか。現代のラ・マンチャの男はこうしてロバならぬ飛行機で私の村へ帰つて行きました。)



最新作「チェスをする男」

つくりあげたイメージと実際はちがう。パリ—ニューヨーク時間が5時間、ニューヨークからロスアンゼルスまでも5時間。とても大きい国だね、でも私は好きよ。今まで行ったことがなかつたのは戦争で負けたから。例の運ちゃんでいい印象をもちましたね。妙な国、妙な人たちといえば一番妙なのは日本人だと思うよ。

(ラツディ・マリーを飲みながら、仕事が忙しかつたので今は大変疲れているという。男の伊達を感じさせてくれる鴨居さんの今日のいでたちはジーンズの上下、アメリカ製の硬いジーンズではなくパリの例の柔かいスマートなジーンズ。

この人が、タバコが眼に入つて飛び上りたくなつたのをじつと我慢して光景なんて……笑つてしまふけど本当にあつた話だそうです)

ある現代美術家の非芸術的なレポート(8)

デュッセルドルフにて

河口 龍夫
(造形作家)



西ドイツのデュッセルドルフに出かけた。ホテルの予約なしで出発したので、デュッセルドルフ駅の案内所でホテルを捜した。少々高価ではあったがシャワー付きの清潔な

ホテルがあいていた。

ドイツへ向った目的は、現代美術にすぐれた作家を多く輩出し、市場的にも活況を呈していることを日本の美術評論家が盛んに美術雑誌に書いてるので、どの程度のものか自分の眼で確かめたいとふと思いつたからであった。もちろん、短期間の滞在で多くの見ることは望めないとしても、ドイツ現代美術の一端にでも触れればと思ったからであった。ところが、画廊や美術館では、ドイツの作家の作品にはあまり出会わないで、アメリカの現代絵画の良いコレクションに出会つた。アメリカのアクションペインティングやポップ・アートの大量の進出であった。ボ



「絵画の力強さ」をすごく感じさせられた。それはそれとして見た意味があった。がドイツの若い作家の作品にあまり出合えなかつたのが

は残念であつた。デュッセルドルフ市立近代美術館では、これまたアメリカの作家、ブルース・ノーマンの回顧展が開催されていた。美術館の入口前でドイツの若い作家数名が大きな木で美術館をあたかも抗議するかのごとく制作していたのが印象的であった。すぐその近くにコンラッド・フィッシャー画廊と言う、比較的新しい美術、コンセプチュアルアート(概念芸術)を貫してあつかっている画廊で、パリビエンナーレにも参加している若いドイツの作家と話すチャンスがあつた

が、外国の作家の作品ばかり
買い、展覧会をするわりに積
極的に我々の展覧会をやらな
いとなげていた。日本では

どうかと聞くので、日本でも
同じような事情で、例えば國
立の美術館では日本の作家は
物故作家でないと展覧会がで
きないほどだとなぐさめあ
つたものだ。それでも、デュ



ツセルドルフ市立近代美術館

のカタログを見る限り、アクチュアルな問題をも
つたユニークな現代作家の企画展が多く開催され
ているのは興味ぶかかった。その若者は、ビエン
ナーレにデュッセルドルフシーンというタイトル
のグループとして参加していた。その作品がきわ
めて厭世的であつたことを思い出す。コンラッド
・フィッシャー画廊では名前はわされたが、ドイ
ツの作家で写真を使用した概念的な作品を展示し
ていた。画廊のとなりはあの有名なヨゼフ・ボ
イスの事務所であったが、何故か旅行中とかで閉
っていた。思いし出たが、デュッセルドルフ市立
近代美術館で昨年、日本—伝統と現代—絵画、ゲ
ラフィック、彫刻、オブジェと題した展覧会が開
催された。私も参加メンバーの一人に選ばれた
が、くだんの若者はどんな眼でこの展覧会を見た
だろうか。

その美術館のすぐそばの道路で、マンホールの
フタをあけて地下の配電工事をしていたのを見か
けた。ところがよく見ると、どうも配線が美しす
ぎるぐらい色彩豊かに色どられていて、当の電気
技師もアーティスト風で、どうやら一種の芸術上

のイヴェントではないかと
思えた。

ドイツでのもう一つ別の

興味は、セックス・ショッ
プに立寄ることであった。



DEATH

しかし午前十時から午後六時迄開店と書きしるして
あつた。普通の商店と同じように営業しているの
であった。そこで次の日、昼すぎに行つてみた。
非常に清潔な感じの店内ではやる心をおさえなが
ら、ゆっくりと見てまわつた。作品を見るのとは
また別の気持だ。老夫婦らしきカップルが本を見
ていたが、きちつとした身なりで話し合つていた
が、まるで娘か息子にでもプレゼントするのを選
んでいるのか、それとも当人達の楽しみのためな
のだろうか。本棚はきちんと整理されていて、男
女のコーナー、レズのコーナー、ホモのコーナー
とわかれていた。店主は日本人に大変親切で、あ

いそよく色々と見せてくれた。
デュッセルドルフの公園はどこも大変美しく、
のんびりした気分にひたらしてくれた。
ビヤホールに出かけたが、ポルノ雑誌でかわい
たのどには、とりわけドレイビールがうまかつ
た。

写真はデュッセルドルフ市立近代美術館の近年のカタログ。Mark Rothko, Panamarenko, Pol Bury, Bruce Naumanなど

体験者から、30年後に神戸で

繁栄犯罪人に加担できない

野坂 昭如 〈作家〉

開演が近づくと、文化ホールの入口付近にぞくぞく人が群がり出した。さすがにみんな若い、十代から二十代初めの男女。日が長くなつてまだ明るみの残る午後六時。手持ち無沙汰なふうの、一人の男性をつかまえる。

18才だという高校生。

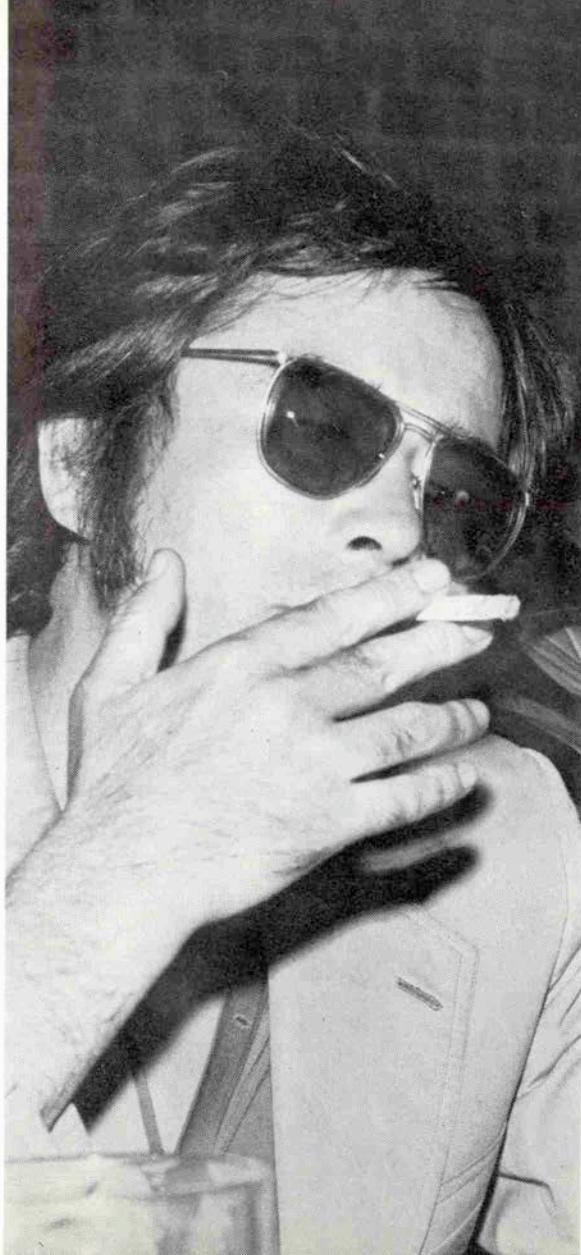
「今日はどうしてきたの？」

「あのは僕の小学校の先輩ですからね。小説はわりと読んでる。いろいろやっていることも、あのはあの人なりの考えがあつてそうしているんだし、わりと理解できますね。好きだナ」

だいたいそんなことをしゃべってくれた。

野坂昭如 1945・夏・神戸。30年前、14才の時に神戸で大空襲に遭つた。家を町を焼け出され、両親と妹を失つた。その決定的な重みをひきずつて生きている彼が「神戸の町を弔う」意味で30年後の6月4日、この独演会をもつた。

翌朝、サンテレビの放送を終えた野坂氏に、お時間をいただきたいのですが、と申し入れる。昼すぎには東京へ帰るという、過密スケジュールの間をぬつてのインタビュー。



——自分たちの子供の頃と、今の子供たちとあまりにも違うので、ふつと可哀そうって気もちになるのね。だつて僕が住んでいた頃というのは石屋川にカニやヘビや小さな生物がたくさん住んでいて、夏には毎日海で泳いで、子供どうしじや泳ぎに行っちゃいけないっていわれてもこつそり行ってしまう。ところがゲタの緒が濡れて、それが乾いて塩がふいてくるので、海へ行ったことがバレてしまう。次からはバレないように海から帰つてくると井戸でゲタを洗つたりするんです。

神戸ってのはとてもいい町で、山がすぐ近くにあって海では泳げるんですよ。カニが川にいてね。それにちょっと行けばハイカラな町があつた。新しく開けただけに大変おしゃれな町だった。阪急電車は当時犬を乗せてよかつたので、御影なんかでたいてい犬を連れたおばさんが乗つてきたりね。ツイードのスカートはいてプラスにカーディガンをはおり重たげな鞄を持つてのが神戸女学院の生徒で、彼女たちは戦時中も家へ帰るとモンペをはかなかつたですよ。

僕は小説に書こうと思うんだけど、「最後のケーキ」っていう、フランスに「最後の授業」という小説があるけれど……もうドイツがダメにならうといふ頃、三宮のユーハイムが店を閉まうので最後のケーキを、普段よく買った人たちに売つてくれた。ドイツ人のおばさんが「またおいしいバームクウヘン作るから買ひに来てくださいね」って、もう、えもいわれぬ顔していつたのを覚えてる。似たようなことはずいぶんあつたね。トアロードの中華料理屋で、もうこれが最後だつていうのにすごいごちそうしてくれたり。土橋から出ていたケープルを降りて左側にお汁粉やがって、それが昭和19年の夏までお汁粉を売つていた。西宮のバボニーって喫茶店は昭和20年の7月いっぱいまで開店していた。昔の記憶は、まだ子供だったからあくまで子供の目で見たものだし、誰でも減びてしまつたものを思いだして感傷的になるのも当然だけど、具体的に思いだしてもあの頃ユーハイムの

おばさんがいたり、バボニーのおばさんがいたりして。今住んでらっしゃる方にそんなこといつても感傷でバカバカしいって思われるかもしれないけど……。御影公会堂の下の食堂の支配人というのは、やっぱり最後に「これがおしまだ」とヘンな魚のフライかなんか食べさせてくれたんだけど、その支配人が今もその食堂にいらっしゃる。ユーハイムからは毎年僕の誕生日には「いつもでもバームクウヘンを作ることができますように」と從業員一同としてバームクウヘンが送られてくるんです。

——坂があつて、坂を上ると住んでる町を俯瞰できる、坂を上つてふと振りかえると、昔は「扇の都」といわれてたようすに海の防波堤が扇のようすに伸びていた。外国船が五色のテープを飾つて出港していく風景やら、聚楽館の上のスケートリンクに行つたり、六甲山のゴルフ場に父親に連れられて行くとか、六甲山ホテルに行くとか、ドライブウェイを車で下りてくるとか、須磨のほうに行けば魚がいくらでも釣れる……自然とあんなふうに調和した町はそうない、非常にいい町だった。昔の神戸は段ちがいにしてきだつた。神戸って町が僕自身の存在とぬきがたくある、僕がベストドレッサーといわれる所したらまた僕が歌うのも小説書くのも、これは僕が神戸にいたからだと思いますね。

リサイタルで――。

早口の、もつれるような語り口（実際、アルコールがかなり入つてゐるようだ）を交えながら、ヒット曲を歌いまくる。客席は大人しい。舞台の前まで駆けて出て、花束を捧げる女性が何人か。

舞台の脇に控えまするバックコーラス部のおとめたち。歌う野坂氏に「いつコーラスすればいいの？」とがめだてするようになれば、ものは問い合わせ面持ちで、全面好意的なほほえみをかすかに浮かべながら、顔を向けている。

バージンブルース、トルコの心は母ごころ……、ねむれねむれ少女……。

「大型歌手として、さらにイメージエンジをはかっております」と、イラストレーター黒田征太郎氏の紹介で、二度目に舞台に現れた彼、こんどは衣裳屋から借りたという、三波春夫もかくや、と派手な着物の着流しスタイル。

客席は相かわらず大人しい。

主催の「神戸空襲を記録する会」から君本昌久さんが登場、「神戸大空襲」の記録フィルムが回り、空襲を語る。

「今は、特別な時代であるとは見えにくいけれどやつぱり平常じゃない時代ですよ。異常も感じなくなつて特別な時代を生きている。全てを知られなくて不安だったあの空襲の時代をいましめにしないと……。少なくとも今は何んでも言える時代なんだから」

◇ ◇ ◇

——6月5日にはよく神戸に来ているんですが、5時30頃分にいつも空を見上げるんです。あの時、東の方から爆音が響いてきて空を見上げると、少し曇っていて、それが覚えている最後の印象で、そのあと気がついた時には家がほんほん燃えていた。

妹は一年四ヵ月で空襲に会って、一年六ヵ月でなくなつたんだけど、今パングラデシユだとか一時のベトナムで死んでいった子供たちを報道写真で見るのとちようど同じように栄養失調から脱水症状をおこして死んでいった。医者に僕が連れていったら「こんなふうに腸炎で死ぬ子供が多いんですよ」といわれたけどね。妹を葬るのが可哀そうでしかたがなかつた。着物を着せると燃えにくいからダメだといわれて、燃えいいように大豆のカラを下にしてその上に寝かせるんだけど、可哀そうで身体の下におしめをしてやりました。これなら僕が土に埋めてやればよかつたと思つて。

僕たちは空襲にあうまでは、ケーキを食べたり肉を食べたり、ふつうの人に比べればほど恵まれて暮らしていただんだけれど、それだけに空襲の後のひどい生活との落差がすごくあつたわけですよ。昭和18年の暮にまだクリスマスツリーを飾つたりしていた。ツリーの雪に綿をちぎつて使つていたら、近所の娘さんがそれを欲しいといふんだ。その時は何にそれを使うかわからなかつたものの、そういう娘さんの顔の表情が当時の僕にもなにかひつかかるものがあつて、だから今も覚えているんだけれど、そりやあ綿なんて貴重品だつたんでしょね。

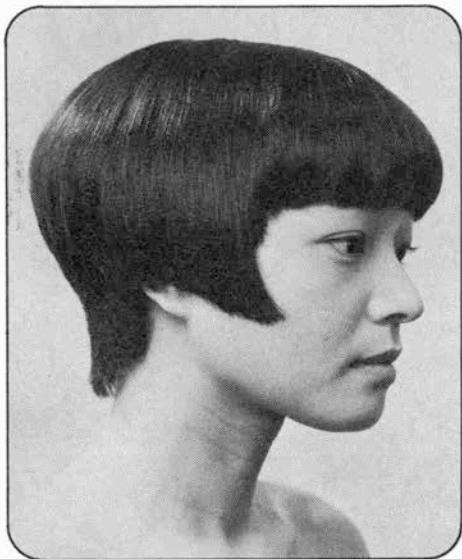
僕は今、朝から晩まで酒を飲んでいて、いずれアル中で死ぬんだろうけど、もう今の時代こうなつたら飲むしかないので暗うつな気もちなんですね。

——（戦争を）あれは特別なものだと考へてしまうのは大きな間違いで、今の現在の状態も同じようなことがあらうと思うんです。僕はいつもスマッグ情報を聞くと空襲警報を思い出す、現に今も空襲を受けているわけで。あの時ひたすら逃げた。振りかえつて燃える町をきれいと思ったことを覚えている。大本営発表の情報だけで全てを知らされていかつたことが不安を大きくもしたし、世間の方で拒否しておれば空襲も回避できたはずだ。その意味で僕は空襲というものを考えていくたいし、今とどう関わりをもたせていくかということでしか空襲体験の記憶は残つていかないと思う。僕たちにあの時大人たちがしたような同じことを、今僕たちが若い人たちにやつしているんじゃないかと恐れるわけで、今はともかくも何でもいいたいことはいえる。本当に苦しい目に会つた人は発言しないかもしれないし、死者もしやべることはできないけれど、僕はしゃべり続ける方がいいと思って、いつももとに戻つてしまつてゐる。苦労話がまた始まつたと若い人は思うかもしれないけれど、あれは戦災は、天変地異じやなかつたという恨みを持ち続けていかないと……。（オリエンタルホテル）

美容室井上の

ORIGINAL LIFE

あなたのヘヤーライフに新しいモードを！



7月のお客様／渡辺博子（神戸大丸）

この夏にふさわしく、個性的で
シャープなボブのカットを試みました。

美容室

井上

井上繁和・カネ子

生田区多聞通り4ノ9ノ1

TEL 341-1110

毎週月・第3火曜日休



きものと細貨
おんざら庵

神戸

西 店 / 三宮センター街・電話 331-8836(代)

東 店 / 三宮センター街・電話 331-0629

三宮店 / さんちかタウン・電話 391-4303

東京

銀座コア店 / 4階着物コア・電話 573-5298(代)

渋谷東急店 / 5階和装名家街・電話 477-3409(直)

日本橋東急店 / 4階和装名家街・電話 211-0511(代)

(内線294)

池袋パルコ店 / 4階着物小路・電話 987-0561(直)